〝夢を追いかける〟

次世代ベンチャーによる パネルディスカッション

■ セッション1

表彰式後、二つの会場に分かれ「〝夢を追いかける〟次世代ベンチャーによるパネルディスカッション」と「新進気鋭のベンチャー企業プレゼン」が開催された。

■ パネリスト1

伝統技術を日用品のなかで伝える

0歳から6歳の子供のために地域の伝統産業の職人さんの技術を用いて日用品を作ることをやっている。ジャーナリストを目指し慶應大学で学んでいた4年生の時、「伝えるとは何か」を考える中で、伝統産業に足を踏み入れた。赤ちゃんを出迎えることから始めようと「本藍染の出産祝いセット」からスタート、昨年7月に東京・目黒に直営店をオープン、今年は11月開業を目指し京都直営店の準備も進めている。「成功しているね」と言われたりするが、3年目でやっと仲間を迎えられる状況になった。今一番の関心事は、人材が勝手に育まれる土壌をベンチャーの間にいかに耕していけるかだ。

㈱和える
代表取締役
矢島 里佳氏

■ パネリスト2

母として地域を考えた農業ビジネスモデル

静岡を拠点に「おいしい」の共創を目指し、農家と消費者の情報をつなぎ、直の取引ができる「ベジプロバイダー事業」を展開している。東大卒業後、産業ロボットの開発に携わったが、母として何かすることはないかと考えた時、農業に元気がない、地域に元気がないと気づき、農業の勉強をし、2009年に起業した。2年半ぐらいして日本政策投資銀行の「女性新ビジネスプランコンペティション」で大賞を獲得、背中を押された形で農業に専念した。昨秋、食のプロが副社長に就いてくれた。「加藤百合子事務所」から脱皮し、会社として業務遂行できる体制に変えているところだ。

㈱エムスクエア・ラボ
代表取締役
加藤 百合子氏

■ パネリスト3

中古住宅のリノベーション事業で成長

古い住宅をオーダーメードでリノベーションして再流通させている。ラグビー一筋だったが社会人ラグビーで挫折、先輩の紹介からゼネコンでアルバイトし、社員になった。地上げなども経験する中で、欧米のように古い家を大切にできないかとの思いが強くなった。そこで中古マンションを検討している人に不動産会社、金融機関、設計施工会社などをマッチングさせるビジネスを始めた。全国に13あるショールームで壁、床などを見てもらい自分の思い通りに作れる。費用は新築の約3分の2。5期目になりスタッフも100名弱。これから走るステージ。どう攻めるか悩むと同時にわくわくもしている。

リノベる㈱
代表取締役
山下 智弘氏

■ ファシリテーター

矛盾や穴を埋めるビジネスが鍵

3人のお話をうかがっていると共通点がある。それぞれのかかわっている産業は大きいが、その中に矛盾や大穴があり、その穴を埋める人がいないから自分で埋めていったということではないか。世の中にはそういう穴がいっぱいある。ベンチャーは無から有を生み出すことと解説する人もあるが、投資家の目からみると、穴を見つけ、埋めていくビジネスが結構重要だ。日本のベンチャー市場も大きく成熟し、誰でもチャレンジできる環境が整ってきた。3社のようなベンチャーがこれからも出てくることを期待したい。

レオス・キャピタルワークス㈱
取締役・最高投資責任者
藤野 英人氏

■ セッション2

モーニングピッチ in JVA

Morning Pitch

トーマツベンチャーサポート・野村證券による出張版「モーニングピッチ in JVA」が開催され、ベンチャーと大企業の連携促進などを目的とした同イベントらしく、新進気鋭のベンチャー企業が登壇し熱のこもったプレゼンテーションを行った。

■ トーマツベンチャーサポートによるポイント解説

全国2200社のベンチャー支援ノウハウを活かし ベンチャー企業と大企業の連携促進に尽力

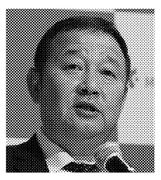
監査法人トーマツから派生した子会社・トーマツベンチャーサポート株式会社と野村證券が開催するモーニングピッチ。毎週木曜朝7時から新宿野村ビルにて、5・6社が登壇しオーディエンスは大企業中心に120～130人と毎回盛況に開催。ベンチャー企業と大企業の事業提携を生み出すことを目的としている。全国で2200社のベンチャー支援を行っているため、大企業およびベンチャー企業を熟知。ニーズがありながらもなかなか連携できない現状を踏まえ、間に入り結びつけるためスタート。ベンチャー支援をやってきた現場感やイベント・ネットワークを活用し、事業提携をバックアップしていきたい。

トーマツベンチャーサポート㈱
事業開発部
権（こん） 基哲（きちょる） 氏

■ 企業プレゼンテーション①

被災地から省エネ・停電などの防災対応製品を発信するモデル性のある事業

震災時に暗闇で動けない人が多数発生したことから、蛍光塗料とも違い半永久的に光る技術開発を思いつく。有田焼の磁気生産の伝統技術を応用し蓄光顔料とガラス基材を組み合わせ焼成する画期的製造法を開発。高輝度蓄光商品「ルナウェア」シリーズの製造・販売を行っている。導入事例は非常口マークや時計文字盤の緑の光など。また、東日本大震災の被災地・福島県川内村に工場を建設し、被災地から省エネ・停電対策などの防災対応製品を発信するモデル性のある事業でもある。求める市場は、集合住宅、工場、公共施設、商業施設、鉄道施設等。さらにドロップ（碁石形）や石状、粒状の製品をペーブメント等のイルミネーション、アクセサリー等々で用途も多様。今回の発表を通じ幅広な用途ニーズを吸い上げ、商品開発につなげていきたい。



コドモエナジー㈱
代表取締役社長
岩本 泰典 氏

■ 企業プレゼンテーション②

次世代先端医療として世界のクリニックに がん放射線治療装置導入を目指す

がんの死亡率が高まっている昨今、早期発見・早期治療が急務課題となっている。課題解決のため、早期発見に即対応出来る次世代のロボットを使った早期がんの小型放射線治療装置の開発に成功。当社は先端治療法として小さなクリニックへの導入をねらっている。現在のがん治療は国内では手術などが主流だが、当社開発装置であれば入院や手術が不要で正常細胞を傷つけることなく、日帰り30分ほどのたった一回の治療で済む。すでに米国薬事承認の申請を完了。ビジネス上、最先端医療を引っ張る米国市場での展開が必要不可欠。当社のIP戦略も米国を中心に展開する流れで進めている。今後4～5年以内のIPOを予定し、特に高速の画像処理技術、あるいは関連する先端技術、システム開発、X線検査技術、PET、超音波等の技術を持つ企業とアライアンスを組んでいきたい。

㈱アキュセラ
代表取締役社長
田辺 英二 氏

■ 企業プレゼンテーション③

睡眠の質の客観的評価に特色。 うつ病評価技術で特許も取得

医療機器脳波計「スリープスコープ」を用いて計測した睡眠脳波を分析し、睡眠の質を正確かつ客観的に評価できる画期的なシステムを開発した。操作が簡単でありながら医療用精密検査と比較して遜色ない、高精度な結果を迅速に得られるシステムとして、主に研究開発の領域を中心に導入されている。また、精神疾患の有無および重篤度を評価する技術を確立し、日米で特許を取得。今後うつ病分野を中心に企業健診への導入などを図っていきたい。そしていま当社が求めているのは人材。こうしたフィールドでぜひ事業をしてみたいという方と、今日は出会いたいと思っている。

スリープウェル㈱
代表取締役
吉田 政樹 氏

■ 企業プレゼンテーション④

遺族の心のケアから逆算しサービス設計を行い 終末医療の課題に取り組む

終末医療の課題に取り組むべく、イノベーションを起こすため事業展開をしている。いくら葬儀をしても、遺族には心に穴があき喪失感はなかなか癒せない。亡くなることで家族は心の傷を負うということに、寝たきりの祖父の介護をしていた母の姿で知り、遺族ケアが必要と思いいたったことがきっかけで起業。医療行為を超えた遺族の心のケアからスタートし、逆算しながらサービス設計を行っている。訪問看護ステーションをネットワーキングしていることが大きな特徴。今後はロールモデルの確立およびグローバル市場への展開を視野に入れている。そのためにも現在、金融機関や不動産会社との提携を図っていきたい。

㈱ホスピタリティ・ワン
代表取締役
高丸 慶 氏

■ 企業プレゼンテーション⑤

過疎地や限界集落の産業・雇用創出も担う マルベリー（桑の実）事業展開

創業当初から農業の6次産業化を進めてきたことが大きな特徴。その中で事業の中核を成し製品製造から卸・販売まで担うのが関連4社のうちの当社。当社を含め自社店舗網の管理、素材長期保管のための1次加工、素材生産の4社体制により素材から中間加工、加工食品販売、自社店舗網での販売とこだわり感の強い商品展開ができている。そして今回、特に力を入れているのはマルベリー（桑の実）に関する事業。現在使われていない桑の実の成分や効能に着目。第一段階はスイーツとしてジュレやゼリーなどで商品化。第二段階は機能性食品に進んでいきたい。商品化に向け売り方や販売チャネルを持つ方々と協力関係を築いていきたいと考えている。

岡山県青果物販売㈱
代表取締役
大西 直規 氏

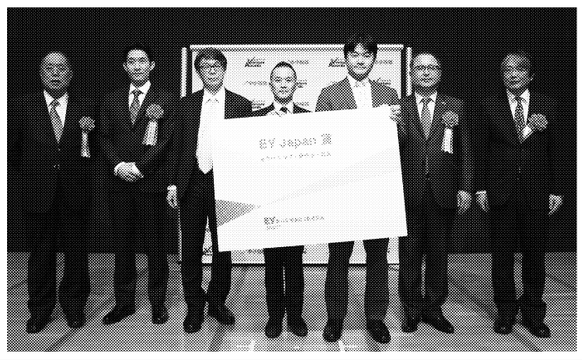
■ 企業プレゼンテーション⑥

世界初、虫歯菌など殺菌しながら飲み込んでも OKのオーラル製品の事業化に成功

障がいを持った長男を授かったことから障がい者の賃金の低さや親亡き子問題などを知り創業を決意。障がい者の雇用創出および口腔ケアが困難な要介護高齢者・障がい者などをターゲットとしたオーラルケア製品の開発・販売を行う。介護コスト削減のため厚労省が口腔ケアを進めていること、高齢化社会であることから成長期待分野。当社製品「オーラルピース」は、口の中の虫歯菌などを殺菌しながら飲み込んでもOKという世界初の製品。全国の障がい者施設や高齢者施設だけでなく、医療機関や小売店もターゲットとして販路拡大している。多くの方々の共感、協力を得て今後、グローバルベンチャーとして日本から世界へオーラルケアを届けていきたい。

㈱トライフ
代表取締役
手島 大輔 氏

■ ビジネスラウンジ

セッション終了後、ビジネスラウンジを開催した。場内にJVA受賞15人とセッション2出演者のブースを設置。受賞者ブースのまわりには関係者はじめ、大手企業や投資家、支援機関等多くの来場者が集まり、幅広な交流が深められた。なお資金調達や事業連携等、今後の商談につながる積極的な交流もみられた。

またステージ上では今回協力機関としてビジネスラウンジのマッチングのサポート等を行ったトーマツベンチャーサポートの吉村社長からの挨拶に続き、新日本有限責任監査法人、日本航空、森ビルから各種奨励賞の発表、贈呈が行われた。場内は、積極的な交流やベンチャーへの期待感を感じる活気ある雰囲気に包まれ、盛況のうちに終了した。